



56号の主な内容

- 2019年度総会開催
- ハビタットひろば
- ミャンマー研修報告会
- 国連ハビタットスタディツアー
- チャリティしし鍋パーティ
- 今後のスケジュール



■2019年度総会開催

2019年2月27日19時~21時に、アクロス福岡のB1グランチャイナで、ハビタット福岡市民の会の総会を開催しました。出席者は8人でした。



2019年度の主な計画としては、最近、毎年実施している「若者よ国連を目指せ」のシンポジウムを8月18日(日)に開催すること、5月又は6月に市民の会の勉強会を開催すること、その時の講師は、国連ハビタット福岡本部の職員にお願いすること、ハビタットの事業を見学に行くスタディツアーの検討をすること、会員を増やしてもう少し収入増を図ることなどを決めました。役員の変更も継続することで決まりました。総会後は、懇親会を行い、色々な情報交換をして楽しみました。(佐竹芳郎)

○2018年度活動報告

- ・定例会や勉強会の開催
- ・ニュースレターの年3回の発行
- ・ハートフルフェスタ福岡2018への出展
- ・国連ハビタット福岡本部の行事への参加
- ・シンポジウム「若者よ国連を目指せ」の開催
- ・会員相互の交流会の開催

○2018年度会計報告

<収入の部>

前期繰越し	121,307円
会費収入	63,000円
支援・寄付金	52,329円
合計	222,636円

<支出の部>

NL印刷費・印刷用紙・コピー代	23,635円
Fukunet年会費	2,500円
市民どんたく負担金	3,000円
寄付金送金	42,000円
雑費	1,080円
切手代	26,100円
振込手数料	1,620円
郵便振込管理口座手数料計	1,550円
通信費	7,366円

運搬交通費	2,920円
講師代	20,000円
懇親会費	18,000円
翌年度繰越	75,785円
合計	222,636円

○2019年度活動計画

- ・定例会を毎月原則として第3水曜日に実施
- ・ニュースレターを4月、8月、12月に発行
- ・国連ハビタット福岡本部の行事への参加
- ・チャリティパーティ開催
- ・福岡市民の会主催シンポジウム
- ・ハートフルフェスタに出展
- ・地球市民どんたくに出展

○2019年度の運営組織

- 代表 牟田 慎一郎
 副代表 佐竹 芳郎
 事務局長 前田 直樹
 事務局次長 山田 理沙
 事務局補佐 楠元 雄大
 会計 山前 隆
 監事 島 祐二郎
 HP担当 前田 直樹
 イベント担当：尾形 芳恵、中川 雅文
 運営委員 荒田 雅子、大坪 優美子、坪根 義徳、寺崎 富繁、長澤 良成、松見 邦子、古城戸 徹

■ハビタットひろば

国連ハビタット福岡本部と福岡県国際交流センターによる合同レクチャーシリーズ「ハビタットひろば」がアクロス福岡3F「こくさいひろば」にて開催されました。

●第47回 世界の都市問題解決に向けた国連ハビタットの活動

12月10日(月)18:30~19:30に開催され、国連ハビタット福岡本部の是澤本部長が「世界の都市問題に向けた国連ハビタットの活動」をテーマに国連ハビタットの役割と活動について講演されました。



2018年からマレーシアの元ペナン市長が事務局長に就任したナイロビ本部の事や各地域にあるハビタット地域本部の説明、SDGsの取り組み、人口100万人以上の都市がアジアで増加している状況とそれに伴う貧富格差の増大、都市化の問題をスライドを使って話されました。



公共空間の評価例として中国の武漢市、アジアの都市景観賞、土地の占有権の証明書を発行し良い投資循環になりつつある復興するアフガンの例、ピープルズプロセスの成功例、ゴミ処理「福岡方式」を取り入れたエチオピアの例、先端技術に基づくスマートシティへの意識の高まりなど具体例を挙げて説明されました。

2016年に開催された第3回国連居住会議（ハビタットⅢ）ではニュー・アーバン・アジェンダが採択され、今後20年程度の持続可能な都市化のための世界共通のビジョン・スタンダードが設定されましたが、一方アジアで急速に進む都市化は、経済成長の牽引と共に都市問題を引き起こしている状況があり、その問題対応へ活動する重要性を感じました。（坪根義徳）

●第48回 「福岡方式」アフリカへ PartⅢ ～エチオピア～

2019年2月1日（金）に開催され、国連ハビタット福岡本部の星野幸代本部長補佐官の講演があった。

躍動するアジアの国々は都市化が進んでいる。エチオピアもそうした国のひとつだ。都市への人口流入はゴミの問題を露見させた。従来の方法ではゴミの集積場に火災等の問題を発生させてきた。こうした問題を解決する方法として「福岡方式」なる解決方法があるというのだ。しかも従来のゴミ集積場がどのような状況であれその国の実情に応じて適用できる方式だという。

中でも私が一番関心を持ったのは、この事業にゴミ集積場で生活している人々が参加しているという事実だ。先進国の押し付けでなくその国の人々が事業に関わり発展させていける状況があるということに感動すら覚えた。

私たちのふるさと福岡の方式がアジアの国々の発展に少しでも寄与できるならば、市民としての誇りである。（古城戸徹）



●第49回 スリランカの都市の将来を考える

2019年4月8日（月）に開催され、国連ハビタット福岡本部の是澤優本部長と九州大学人間環境学研究院準教授のブラサンナ・ディヴィガルピティヤ氏による講演があった。



現在のスリランカは、人口が2103万人（2016年調べ）で、スリランカは、都市化が急激に進んでいる。しかし、今年から、人口増加のスピードは低下気味。現在から、過去に遡り、20年前から、貧困の格差の問題が広がっている。そして、スリランカの現在のSDGsの目標の中でも、11番目の住み続けられる街づくりは何故大切か？を主に重視して目標にしているそうです。

スリランカは、9つの州で成り立っています。また、スリランカは、プライメートシティの構成が強く、低密度のスプロール化が進んでおり、地域・都市間の格差があり、広がっています。また、どこ土地、国に行っても大事なのですが、スリランカでも水はとても大事にされています。地域、州の調査方法として、その職の専門家に対し、アンケート使った調査方法をとり入れているそうです。スリランカの周りは都市が増え続け、規模が拡大し続け、サービス産業が増えて活性化しています。



都市とは何かを考え直す必要があります。行政がダブって政府が機能していないそうです。この講演で私が思った事はスリランカは、とてもコンパクトシティで、ガバナンスの問題を抱えているということです。この問題とどう向きあって行くかを考えさせられました。この講演を聞いて私はスリランカに興味を持ったので旅してみたいです。（前田真吾）



スリランカ

人口：2103万人
面積：65607Km²
首都：スリジャヤワルダナプラコッテ
言語：シンハラ語
宗教：仏教（70%）
国旗：



■ミャンマー研修報告会

福岡県国際交流センターと国連ハビタット福岡が連携して実施している「福岡県国際協カリーダ育成プログラム」は、若い人々が国際社会での活躍を自らのキャリアとして意識し、国際協力活動を率いることができる人材を育成することを目的とし、平成25年度より始まったプログラムです。

平成30年度は、県内10名の大学生がこのプログラムに参加し、平成31年2月24日から3月3日までミャンマー連邦共和国に訪問しました。

3月31日にアクロス福岡3Fのこくさいひろばで研修報告会が行われ、国連ハビタットミャンマー事務所での講義や現地プロジェクト等支援活動の視察をはじめ、企業訪問や現地の大学生との交流を通して、学び、感じた”国際協力”について、参加した学生ひとりひとりから報告されました。



この研修では、訪問期間中、毎晩参加した学生たちで集まり、研修で分からなかったことや感じたことなど、情報や意見の交換を行って全員で共有し合ったそうです。短い研修期間とはいえ、参加者たちのチームワークは抜群で、みんな明るい笑顔で元気いっぱいに発表する姿がとても印象的でした。(坪根義徳)

■国連ハビタットスタディツアー

3月22日 福岡 United Children のメンバー12名が 国連ハビタット福岡本部を訪問して、活動内容などについて、理解を深めた。

福岡 United Children とは、『福岡市民のきっかけづくりのお手伝い』を活動理念とし、中学生・高校生たちが自ら活動内容等を企画し、行動・発信する団体で平成23年に設立されました。



当日は、事務所を見学した後、是澤本部長より国連全体の話から国連ハビタットの役割や活動内容等について詳しく説明がありました。また、今日世界的にどのような課題があってどのように解決していこうとしているのかも分かりやすく説明がありました。



SDGsの17の目標においては、ひとつひとつの目標を達成することも重要だが、それぞれがお互い密接に関係していることを理解することも重要であるということ。国連ハビタットの役割の中心となる居住計画においては、都市化そのものは問題というわけではなく、無秩序・無計画に人口の集中化した結果、大気汚染やゴミ問題、スラムなど様々な弊害が生じていることが問題ということ。



具体的な活動については、災害や紛争後の復興支援を行う際、ただ単に支援をするということではなく、コミュニティーを中心に自らが話し合って問題を解決するという”Peoples Process”の手法を用い、住民たちの技術や能力を高めることによって継続的に問題解決に取り組むための支援を行っているということを知りやすく丁寧に説明がありました。

また、海外職員であるLars Stordal(ラース・ストーダル)氏にも参加いただき、経歴や仕事の内容、福岡のことなど話していただきました。質疑応答はそのまま英語で行われ、学生たちの関心の高さがうかがわれ、将来の活躍を期待せずにはいられませんでした。(坪根義徳)

■チャリティしし鍋パーティ

4月28日、チャリティーしし鍋パーティを福岡県小郡市のCreate Plazaで行いました。



今回のメニューは、猪肉の牡丹鍋、牛、鶏、豚、猪肉のBBQ、合鴨の炊き込みご飯、他は焼きそば等でした。参加者の皆さんは、大人から子供まで、お目当ての猪肉を美味しく食べていただき、作り手からしても、皆様に沢山食べていただき感謝の一言でした。



また、今回のチャリティしし鍋パーティのサプライズゲストであるアーティストの詩音さんによるライアの演奏もありました。詩音さんの演奏を聴くために、わざわざ、遠方からの来場者もあるほど、人気があり、実際に、生で聞いてみると本当に神秘的な音で癒される演奏を聴くことが出来ました。詩音さんにも感謝です。

また、来年度、猪肉の仕入れの都合もありますが、頑張ってチャリティーしし鍋パーティを継続していきたいと思えます。来場、参加、協力いただいた皆様にもう一度、感謝です。(中川雅文)



定例会の見学に来ませんか？

ハビタット福岡市民の会では、原則として毎月第3水曜日に定例会を実施しています。参加・見学ご希望の方大歓迎です。お気軽にお越しください。

会場：福岡市NPOボランティア交流センター「あすみん」
福岡市中央区今泉 1-19-22 西鉄天神クラス 4階

■今後のスケジュール

6月1日(土) 18:30～ ハビタットひろば
6月20日(木) 勉強会(ハビタットプロジェクト等)
7月17日(水) 定例会
7月26日(金) 第14回インターナショナルナイト
異業種国際交流会
8月1日(木) ハビタットひろば
8月18日(日) シンポジウム「若者よ国連を目指せ！」
8月28日(水) 定例会(ニュースレター57号発行)
9月18日(水) 定例会
10月1日 ワールドハビタットデー
10月16日(水) 定例会
10月 ハートフルフェスタ(予定)
11月17日(日) ワークショップ
12月1日(日) ハビタットひろば
12月7日(金) 第15回インターナショナルナイト
12月18日(水) 定例会(ニュースレター58号発行)
☆日程は、変更になることがあります。
直前に、Facebook やメールでご確認ください。

若者よ国連を目指せ！ ～国際機関で働くためには～

日時：2019年8月18日(日)(予定)
会場：アクロス福岡 3F こくさいひろば
主催：ハビタット福岡市民の会

毎年ご好評いただいております、国際機関で働くことをより深く知ってもらうためのシンポジウムを、今年も企画します。国際問題や国際協力に関心がある方、国連や国際的に活躍したいと考えている方など、多くの方のご参加をお待ちしております。近まりましたら、Web や SNS で参加申し込みを受け付けします。

編集後記

時代が平成から令和に変わる節目のニュースレターとなりました。

ここ何回か、A4一枚で発行しましたが、今回は、内容が盛りだくさんとなり4ページ構成としました。

ほとんどが、行事の記事となりましたが、次回からは、会員のみなさんの状況なども盛り込んだ内容にしたいと思っています。活動内容、紀行文、感想文、旅行記などなんでも結構ですので、投稿をおまちしております。次回の発行は、次回の発行は、8月21日を予定していますので、7月中にお願いします。(牟田慎一郎)

事務局・お問い合わせは

郵便物のあて先は：

〒838-0134 小郡市下西鯉坂1493 牟田慎一郎宛

お問い合わせは：

TEL：090-6770-2481(牟田)

FAX：0942-41-2080

E-mail：muta@ktarn.or.jp

Facebook：ハビタット福岡市民の会

HomePage：[http:// habitat-citizensnet.org](http://habitat-citizensnet.org)

